



協調会本部(現労働委員会会館) (『協調会の研究』より)



鈴木文治

友愛労働歴史館企画展

期間 2019年

7月4日(木)~12月24日(火)

平日 10:00~17:00

100年前の大正8(1919)年、社会運動の調査・研究、政策提言などを行う二つの団体が誕生した。大原社会問題研究所と協調会である。大原社研は現在も活動を続けているが、「労資協調のための研究調査・社会事業を行う財団法人」として設立された協調会は、戦後、GHQから解散を命じられる。友愛労働歴史館は企画展「協調会結成100年—渋沢栄一と鈴木文治・友愛会—」(2019.7.4~12.24)を開催し、協調会について解説するとともに、協調会結成を主導した渋沢栄一にスポットを当てる。また、渋沢栄一・協調会と鈴木文治・友愛会との関係について解説する。

渋沢栄一

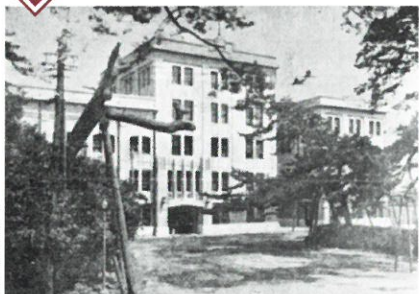


渋沢栄一と鈴木文治・友愛会



協調会27年略史

—1919年~1946年—



▶協調会館

大正8(1919)年12月22日、政府と財界の出資による公益財団法人・協調会が設立され、労働争議の調停、社会政策の提言などに取り組む。後に産業報国運動へと進み、戦後は中央労働学園となるが、1946年7月30日にGHQ指令により解散。第1部では協調会27年の歴史を紹介する。



協調会と渋沢栄一・添田敬一郎 (1919年~1931年)

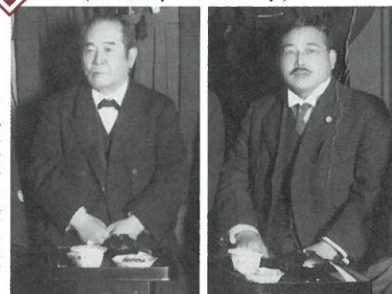


▶添田敬一郎・文部政務次官時代 (添田敬一郎傳より)

協調会副会長に就任した渋沢栄一(実業家、日本資本主義の父)、協調会常務理事を務めた添田敬一郎(内務官僚、政治家)。第2部では「協調主義」「社会連帯主義」を掲げ、初期の協調会を主導した渋沢栄一と添田敬一郎の二人について、写真や解説パネルなどで紹介する。



渋沢栄一と鈴木文治・友愛会 (1919年~1931年)



▶地洋会での渋沢栄一と鈴木文治(大正5.1.6)

大正4(1915)年、渋沢栄一と鈴木文治の関係は米排日問題を契機に始まる。以後、渋沢は友愛会と鈴木を絶えず激励援助する。しかし、大正8年の協調会結成を巡り、渋沢と鈴木文治・友愛会の公的な関係は終わる。第3部では渋沢栄一と鈴木文治・友愛会について解説する。